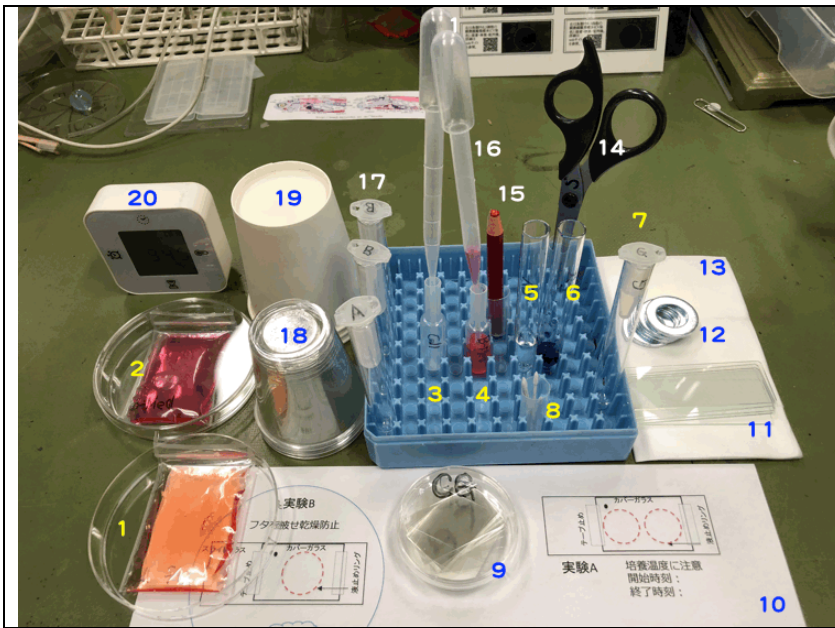


<実践学習への対応:実験材料のイメージと工程別の必要物品>



左図(実験A/Bが混在): 1. フィルムバッグ細胞(12ml パック)、2. 液体培地(15ml パック)、3. 切り取りスポイト(代用試験管): 遠心再浮遊細胞を移し替えてピペティング(単離分散)用、4. 代用試験管と培地、5. 固定液(小試験管)、6. 染色液(クリスタルバイオレット:小試験管)、7. 溶解ゼラチン、8. 綿棒、9. カバーガラス(CG)、MC/CGは掲載していない、10. 操作スペース A4用紙、11. スライドガラス、12. 紙コップ用のオモリ(転倒防止用)、13. 紙ナプキン、14. ハサミ、15. パラフィン色鉛筆、16. 栄研3号スポイト(2本)、17. 遠心チューブ2mlサイズ(小試験管に入れた)、18. 小型ブラカップ(紙コップでも良い)、19. 紙コップ(廃液入れ)、20. 時計、

工程別の必要物品 (4人/班あたりの必要数量:特性や仕様はSet5を参照)

Step 1:カバーガラスの準備(CG培養器の調製)

実験A用: □1)操作スペースA4用紙(4枚)、□2)スライドガラス(4枚)、□3)カバーガラス(4枚:CG)、□4)スコッチメンディングテープ、□5)ハサミ、□6)パラフィン色鉛筆(2本)、□7)細書き油性ペン(2本)、

実験B用:□1)メチルセルロース(MC)処理済みのカバーガラス(MC/CG:4枚)、□2)スライドガラス(4枚)、□3)溶解ゼラチン液(Gel:0.5/1.5ml微量遠心チューブ)、□4)クラフト綿棒(4本)、□5)紙ナプキン、□6)扇風機、

Step 2, 3:細胞液の調製と滴下培養(実験A,B共通)

責任者用:□1)フィルムバッグ細胞(FHLS細胞)と栄研3号スポイト(1本)、□3)50mlビーカー(細胞バッグのスタンド)、□2)培地(B-Med)とスポイト(1本)、□4)ハサミ、□5)小型紙コップ(細胞と培地の分注用:それぞれ2個、補足:紙コップは転倒防止をすること)、□6)スポイト(細胞と培地の配布コップ用:それぞれ2本:合計4本)、

担当者用:□1)遠心チューブ(2mlサイズ:実験Aは1個、実験Bは2個)、□2)微量遠心分離機(約6500rpm・10秒)、□3)遠心チューブスタンド、□4)切り取りスポイト(代用試験管2本:細胞用と培地用)、□5)スポイト(細胞と培地の分注用:各1本)、□6)紙コップ(廃液入れ)、□7)培養温度の設定用品、□8)湿潤箱

注意:細胞液や培地を配布する紙コップ/ブラカップは必ず転倒防止策を行うこと

Step 4:固定・染色(実験A,B共通)

□1)スポイト(2本:使用済みを水洗で再使用)、□2)固定液(N-Fix)、□3)染色液(CV クリスタルバイオレット)、□4)ガラス小試験管(固定液、染色液の分注・配布用)、□5)水道水、□6)水洗用の紙コップ(2個)、□7)紙ナプキン、□8)下記「常備品」。必要に応じて「超速乾性の爪トップコート」

常備品(実験A,B共通)

□1)オモリ(紙コップ転倒防止用:ワッシャー)、□2)紙コップ多数(転倒防止、廃液入れなど)、□3)お湯(湯煎や培養温度など)、□4)温度計(赤外線温度計)、□5)タイマー、□6)ピンセット、□7)ゴミ袋、

補足:栄研3号スポイトの必要数と注意事項

* 班当たりのスポイト必要数は4本(Step2, 3)。その内の2本は切り取りスポイト「代用試験管」とする(上図を参照)。

* それ以外に、Step 2では、実施責任者が担当・用意・必要とするスポイトが5本。

* 固定液・染色液の滴下には使用済みスポイトを水洗・水切りして用いる。

* 意味不明な事項は必ず確認や問い合わせすること

注意:スポイトは用途を明記して使用する。混同して使用すると細胞培養と細胞運動に強い影響を与える。